

算数科 授業改善推進プラン

1 学力効果測定結果

- どの学年も区平均を下回っている。領域に関して言うと、図形、データの活用で区の平均を大きく下回っている。
- 4年生に関しては、すべての領域で区の平均を下回っているが、特に図形の領域が大きく下回っている。内容別に見ると、円と球・正三角形の正答率が極端に低い。他にも、余りを出す割り算の問題や時間の問題も正答率が低い。
- 5年生に関しては、すべての領域で区の平均を下回っているが、特に図形、データの活用の領域が大きく下回っている。内容別に見ると、概数や、四則計算の順位、図形の作図、三角定規の角の大きさ等の正答率が低い。
- 6年生に関しては、すべての領域で区の平均を下回っているが、特にデータの活用、図形の領域が大きく下回っている。内容別に見ると、最大公約数、小数の割り算、多角形の内角、円、平均の問題の正答率が極端に低い。

2 児童の実態及び学習効果測定の結果分析（課題）

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
・10 までの数の構成は理解しているが文章問題の理解が難しく、加法・減法の区別がついていない児童が多い。	・計算は積極的に取り組むが、文章問題は、文章を読み取ることが難しい児童がいるため、個人差が大きい。 ・加法、減法の筆算では位を揃えて計算することに課題がある。 ・c mとmm、L と dL など、単位を揃える計算で混乱する傾向がある。 ・時計の「時刻」は読めるが、「時間」を求めることが難しい児童が多い。	・計算は積極的に取り組むが、文章問題を十分に読み取れず、立式で躓いてしまうことがある。 ・時刻や時間を求めること、長さなど、単位を揃える計算で混乱する傾向がある。	・計算等の基礎的な学習が身に付いていないため、正答率が目標値や大田区平均よりも低い結果となっている。 ・基礎問題が苦手な児童が多いため、応用問題や桁が増えた問題を誤答する児童が多い。	・小数や分数の計算など基礎的な事項の定着ができていないために、目標値を大きく下回る結果となっている。 ・読解力の低さが、データの読み取りや問題の内容把握に影響し、自力で問題解決できない児童が多くいる。 ・資料から複数データを読み取り、間違いを指摘する問題においては、無回答率が半数を超えている。日ごろから、グラフを正確に読みとる練習をしていく必要がある。	・校内の平均正答率が区全体より6ポイント低い結果となっている。 ・小数の計算、分数の計算、立体の体積を求めるといった基礎問題の正答率が目標値を大きく下回っている。 ・割合の問題で、文章の中から比較量や規準量を読みとれない児童が多く、正答率が大田区の平均より下回っている。

3 課題や授業の改善策

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
知識・技能	・教科書を徹底活用する。 ・問題文をよく読み、キーワードとなる言葉を正しく理解させるようにする。 ・飽きないように工夫しながら、繰り返し知識の積み重ねに取り組む。	・具体物を多く用いることや、児童が実際に操作する機会を増やすことで、理解につなげる。 ・10 の合成分解や繰り上がり、繰り下がりの計算など復習を繰り返して定着を図る。	・ドリルやプリント、タブレットを用いて計算練習を繰り返し行い、確実な知識の定着につなげる。 ・時間や長さに関しては、実物に触れ、実感を伴った学習を通して、理解の定着を図る。	・ドリルやプリント、タブレットを用いて計算練習を繰り返し行い、確実な知識の定着につなげる。 ・計算方法や解き方を繰り返し確認し、確実に解けるようにし、技術力を高める。	・教科書、デジタル教科書を徹底活用する。 ・前時の復習の時間を取ってから授業をスタートするように計画を立てて行う。 ・習熟のために、繰り返し問題を解く時間を設定する。	・導入で既習事項の復習を行い、授業で活用できるようにする。 ・小数の加減乗除、筆算などの習熟は、毎日の授業や朝学習などを利用し、問題を解く時間を設定する。その際にタブレットやプリントを活用する。
思考・判断・表現	・おはじきやブロックなどの半具体物や図を用いて数量の関係を捉え、どの場面でも同じように加法や減法が用いられるようにする。	・計算方法などの思考を図や式に表せるように、ノート指導を行う。 ・授業の中で問題作りに取り組む。既習事項を用いて自分で解決の方法（図を使うなど）を考える力を身に付けるようにする。	・既習事項と関連付けて考えることで見通しをもてるようにする。 ・図や表を用いて考えることで、立式ができるようにする。 ・具体物や半具体物を操作することで、解決の手立てをもてるようにする。	・既習事項と関連付けて考えさせ、見通しをもって図や表から立式させる。 ・式の立て方や、解き方の規則性に気付かせ、それらを適切に使えるような思考や判断力を養う。	・ペア学習やグループ学習を取り入れて、自分の考えを説明したり、相手の言っている意味を解釈したりする時間を確保し、説明することへの抵抗感をなくしていく。	・グループ学習などで、自分の考えを説明したり、相手の考えを解釈したりする時間を設定する。 ・自分の考えを説明する際に、図・式・言葉を用いる習慣を付け、分かりやすい説明ができるように促していく。
主体的に学習に取り組む態度	・具体物や図などを活用して、問題を解決したり、その結果を確かめたりする活動を経験させることで、自ら算数を学ぶ楽しさを実感させるようにする。 ・問題作りや児童同士の問題の出し合いなどを通して、学習したことを生かす機会を多く設ける。	・既習事項と関連付けて指導を行い、習得した知識を活用することで、課題解決ができる良さに気付くようにする。 ・学習する内容を日常生活と繋げ、主体性を高める。	・時計や巻き尺などの具体物を使った指導を取り入れることで、興味や関心を高める。 ・ペア学習や小グループでの意見交換や、考えを伝える学習を行い、自信をもって発表できるようにする。	・導入からすべての児童の興味や関心を引き付けられるような問題提示を行い、主体的に取り組めるようにする。 ・既習事項と関連付けて指導することで、これまでの知識を活用すれば課題解決ができるという見通しをもたせ、主体性を高める。	・授業の導入場面ではどの児童にも答えられるような問題から入って児童の意欲を引き出し、児童からのアイディアを生かした授業展開をしていく。 ・今日のめあてを振り返ることで、自己評価し、次の学びに繋げようとする自主性を高める。	・導入で既習事項を振り返ることで、本時の課題に前向きに取り組むことができるようにする。 ・振り返りの時間を適宜設け、自分の学習を自己評価し、次の学習に活かそうとする意欲を育む。

※重視する内容は、網掛けで強調する。